

《履修上の留意事項》言語聴覚士国家試験や卒業試験に出題されることを多く学習するので、選択科目であるが出来る限り履修すること。

《担当者名》福田真二 fukuda@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

音韻論、形態論、意味論、統語論の基本概念を応用しながら、日本語の特徴を体系的に学習する。

【学修目標】

日本語の特徴を深く理解することによって、言語聴覚士として言語発達障害児・言語障害者の日本語の言語データを言語学的な視点から科学的に分析できる能力を身につける。具体的には、次のことを目標とする。

1. 日本語動詞の活用時にみられる様々な音韻規則について説明できる。
2. 言語学的な特徴を基に様々な日本語複合動詞を分類することができる。
3. 単文構造と複文構造の違いを理解し、複文構造を持つ日本語文の統語構造を表記できる。
4. 日本語における自他交替動詞の形態的・統語的・意味的特性について説明できる。
5. 日本語における格付与の仕組みについて説明できる。
6. 名詞句の移動の基礎概念を理解し、かき混ぜ文と話題化構文の派生過程を説明できる。
7. 日本語の表記の特徴を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法、課題、推薦図書、学習の準備、オフィスアワーの活用法等を理解する。	福田真二
2) 3	音韻論	動詞の活用と音の変化	福田真二
4) 5	形態論	合成動詞と複合動詞	福田真二
6) 7	統語論	単文構造と複文構造 埋め込み構造：関係節文/使役文/間接受動文	福田真二
8) 9	形態論	動詞の形態変化と自他交替	福田真二
10) 12	統語論	日本語の格配列/多重主格構文/状態述語と主格 目的語/例外的格付与	福田真二
13) 14	統語論	名詞句の移動：かき混ぜ文、話題化構文	福田真二
15	表記 総括	日本語の表記：ひらがな、カタカナ、漢字 全体のまとめ	福田真二

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題（学期末に提出） 100%

【参考書】

長谷川信子 著 「生成日本語学入門」 大修館書店 1999年
益岡隆志 著 「はじめて学ぶ日本語学」 ミネルヴァ書房 2011年
近藤安月子 著 「日本語学入門」 研究社 2008年
庵功男 著 「新しい日本語学入門 第2版」 スリーエーネットワーク 2012年
小川芳男 他 編 「日本語教育事典」 大修館書店 1982年

【備考】

- ・ 授業に関する連絡は、manabaで行います。
- ・ 講義資料は初回講義の前にまとめて配布しますが、追加の講義資料はmanabaにアップします。
- ・ 課題の提示・回収は、manabaを利用します。

【学修の準備】

予習は、指定された読書課題をして、理解できない部分をチェックしておくこと。また適宜課題を課するので、講義までに必ず済ませること。(80分)

復習は、講義の学習内容をまとめた勉強ノートを作成すること。(80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。